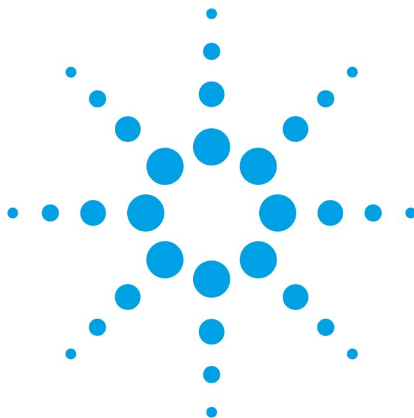


Agilent EZChrom *Elite*

システム管理ガイド



Agilent Technologies

注意

エディション

05/08

Document Revision 3.3 a

Printed in USA

Agilent Technologies, Inc.
6612 Owens Dr.
Pleasanton, CA 94588-3334

保証

このマニュアルに含まれる内容は「現状のまま」提供されるもので、将来のエディションにおいて予告なく変更されることがあります。また、Agilent は、適用される法律によって最大限に許可される範囲において、このマニュアルおよびそれに含まれる情報に関して、商品性および特定の目的に対する適合性の暗黙の保証を含みそれに限定されないすべての保証を明示的か暗黙的かを問わず一切いたしません。Agilent は、このマニュアルまたはそれに含まれる情報の所有、使用、または実行に付随する過誤、または偶然的または間接的な損害に対する責任を一切負わないものとします。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がこの文書の条項と矛盾する場合は、別の契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

このマニュアルで説明されているハードウェアおよびソフトウェアはライセンスに基づいて提供され、そのライセンスの条項に従って使用またはコピーできます。

Restricted Rights Legend

If software is for use in the performance of a U.S. Government prime contract or subcontract, Software is delivered and licensed as "Commercial computer software" as defined in DFAR 252.227-7014 (June 1995), or as a "commercial item" as defined in FAR 2.101(a) or as "Restricted computer software" as defined in FAR 52.227-19 (June 1987) or any equivalent agency regulation or contract clause. Use, duplication or disclosure of Software is subject to Agilent Technologies' standard commercial license terms, and non-DOD Departments and Agencies of the U.S. Government will receive no greater than Restricted Rights as defined in FAR 52.227-19(c)(1-2) (June 1987). U.S. Government users will receive no greater than Limited Rights as defined in FAR 52.227-14 (June 1987) or DFAR 252.227-7015 (b)(2) (November 1995), as applicable in any technical data.

目次

1 取扱説明書の使い方

はじめに

取扱説明書は Agilent EZChrom *Elite* データシステムのシステム管理 機能について説明しています。

お客様へ

取扱説明書はプロジェクトやそのデータシステムを使用するユーザーの作成および管理を行うシステム管理者用に作成したものです。

取扱説明書 中の字体

取扱説明書で使用される字体について以下にしめします。

字体	説明
太字	データデース名、テーブル名、カラム名、メニュー、コマンド、ダイアログボックスオプション、テキスト
イタリック体	情報用プレースホールダ。 例えば、*ServerName* と入力する場合、イタリック体の代わりに本当のサーバー名を入力しなければなりません。
スペース	プログラミング用コードサンプル、表示テキスト
大文字	キーボード入力。プラス記号(+)と併用する場合、最初のキーを押し続けながら、残りのキー(S) を押してください。例えば、SHIFT+TAB と押します。

2 システム管理

EZChrom *Elite* システムはその要求に合わせさまざまな構成にインストールすることが可能です。（①機器を接続した単独のスタンドアロンデータシステム　②ドメインコントロールを使用しないネットワーク上の複数のスタンドアロンデータシステム　③ネットワーク上にないクライアント、Agilent 機器コントロール、EZ サーバー　④ドメインコントロールを使用しているいネットワーク上のクライアント、Agilent 機器コントロール、EZ サーバー）全構成においてシステム管理者の機能はセキュリティーおよびデータシステムへの権限において最大となります。

クライアント/サーバー環境

クライアント/サーバーをインストール場合、ユーザーや権限を管理、定義するための Windows アクティブディレクトリドメインが動作します。その時、EZChrom *Elite* システム管理者は EZChrom *Elite* の構成、機器の構成、プロジェクトの定義、エンタープライズ内の機器やプロジェクトにアクセスできるユーザーやグループを設定できます。プロジェクト定義、編集、アクセスできるユーザーやグループの設定、権限は EZChrom *Elite* システム管理ウィザードで供給されます。

システム管理者機能

システム管理機能には、システムエンタープライズ(ロケーションおよびラボ)の設定または変更、および装置の追加と設定が含まれます。また、ウィザードを使って行う次の管理機能も含まれます。実行したいタスクに利用できる 3 つのシステム管理ウイザードがあります。ユーザー、プロジェクトおよび機器が相互に接続されるので、タスクを実行する方法は 1 つ以上あります。

ユーザーおよびグループの管理 (ユーザーウイザード)

- ユーザーまたはグループに管理機能を割り当て

  システム管理

  機器管理

- ユーザーまたはグループが使用可能な機器または ロケーションの選択
- ユーザーの追加または削除(ドメインワークステーション以外)

機器の管理 (機器ウイザード)

- ユーザーまたはグループをドメイン上の機器に割り当てます。ドメイン上のロケーションに割り当てることもできます。また、そのロケーションのすべての機器にアクセス権を与えることも可能です。

プロジェクトの管理 (プロジェクトのウイザード)

- 新しいプロジェクトの作成または既存のプロジェクトの編集を行います。プロジェクトは名前、保存場所、メモ、およびファイルの場所(データ、メソッド、テンプレートおよびシーケンスの各ファイル)から構成されます。
- プロジェクトに対するユーザーおよびグループの割当
- 各ユーザーに対してプロジェクトの権限(メソッド開発、装置制御などのコマンド機能へのアクセス)を設定します。
- プロジェクトの削除

システム管理機能は、必要なユーザー数にだけ割り当てることができます。また、システム管理機能は、ユーザーウィザードの一部として設定されます。

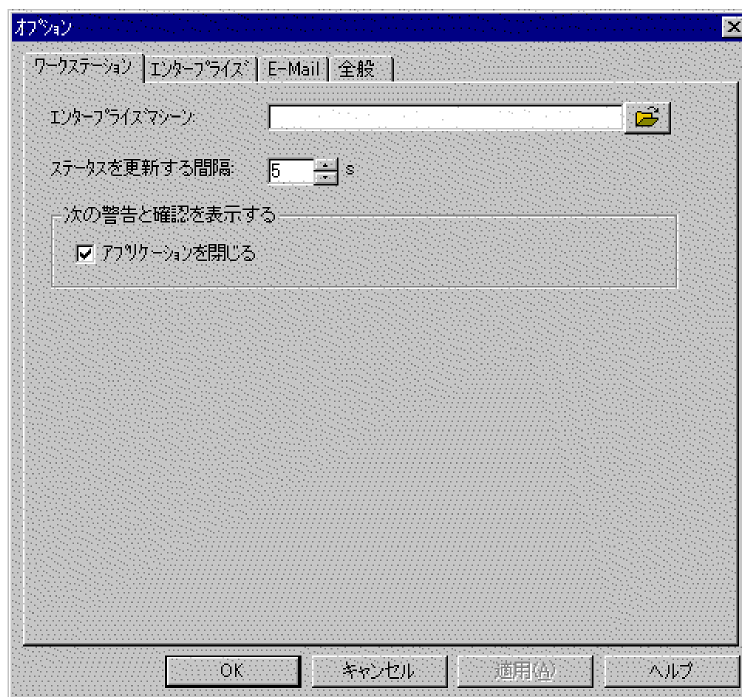
ワークステーションとエンタープライズオプション

システム管理モードにログインし、さらにシステムにログオンできれば、ワークステーションおよびエンタープライズオプションの設定が可能になります。ここでは、システム (S) 環境の種類を選択または変更することができます。ワークステーションおよびエンタープライズオプションにアクセスするには、メニューバーから[**ツール**]/[**オプション**]を選択します。

ワークステーションオプション

ワークステーションに適用されるオプションを設定します。

1. メインメニューから、 [**ツール**]/[**オプション**]をクリックします。インストールに適用されるオプションを選択します。



エンタープライズマシーン

ユーザーリストとしてドメインのユーザーリストを使用する場合、このアプリケーションが動作する PC を特定しなければなりません。この PC はネットワーク情報を供給します。インストールで選択されたエンタープライズマシンがデフォルトで表示されます。エンタープライズマシンは入力あるいはファイルオープンボックスからの選択で変更できます。エンタープライズマシンはエンタープライズ内において全てのクライアントとサーバーで同じであることが必要です。

ステータスを更新する間隔

メインメニューにおいて、[**詳細**]を選択すると、各機器の現在の状態がステータスフィールドに表示されます(例えば、アイドリング中、使用可能、分析中など)。このフィールドを使って、機器の状態表示を更新する間隔を選択することができます。状態更新の間隔を秒数単位(s)で選択します。

次の警告と確認を表示する

アプリケーションを閉じる場合に警告や確認を表示させるには、チェックボックスを選択します。

エンープライズオプション

システムに適用されるエンタープライズオプションを設定します。

1. メインメニューから、 [**ツール**]/[**オプション**]/[**エンタープライズ**]をクリックします。ワークステーションに適用されるオプションを選択します。

エンタープライズの現在の設定を表示または変更するには、エンタープライズタ ブを選択します。



機器コントロールモード

データシステムワークステーションに直接接続された装置に対してデータ収集や制御を行う場合は、[**スタンドアローン**]を選択します。

EZ サーバーや Agilent 機器コントロールに接続された機器に対してデータ収集や制御を行う場合は、[クライアント/サーバ**ー]を選択します。**

ログインと承認を有効にする

ログインおよびプロジェクト管理に対するセキュリティ機能を有効にするには、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、危機または管理機能にアクセスするときに、ログインの必要がありません。ユーザーが一人だけの研究室や機器またはプロジェクトへのアクセスセキュリティが問題でない場合を除いて、通常はこのボックスを選択してください

ユーザーリスト

ネットワークに対してドメインコントローラを使用していない場合は、[**データシステム**]を選択します。

ドメインコントローラの Windows ネットワークに接続されている場合には[**ドメインコントローラ**]を選択します。

パスワードを保存する

このボックスにチェックマークを付けると、ユーザーがシステムにログインしたとき、そのパスワードが保存され、以後ログインする際に、パスワードを入力する必要がありません。このオプションは、1 人のユーザーだけがクライアントワークステーションを使うために考えられたオプションです。パスワードが保存されるため、システムセキュリティは低下します。

シングルログインモードを有効にする

このオプションが選択されると、一度ログインすれば以後のログインはそのログインしたユーザーで自動的にログインされますので、各機器個別にログインする必要がなくなります。

現在のドメインユーザで自動ログイン

このオプションが選択されると、現在 PC にログインしているドメインユーザーで自動的にログインされます。このオプションを選択しないと、システムにログインするユーザーは各機器個別にログインしなければなりません。

使用するドメインを選択

ドメイン名の前にあるボックスを選択すると、そのドメインに登録されているグループ/ユーザーを使用することできます。新たにドメインを追加するには、[**ドメイン追加**]ボタンを使います。リストから削除するには、ドメインをマウスでハイライトにしたあと、[**ドメイン削除**]ボタンを使います。現在のドメインのリストを更新するには、[**更新**]ボタンを使います。

ドメインコントローラを使わずにユーザーリストを得る場合、ワークステーションに対して現在定義されているユーザーのリストが表示されます。

ロックアウト設定

ログインロックアウトセットアップ用オプションを表示するには、このボタンを選択します。

スタンドアロンデータシステム用エンタープライズオプション

クライアント/サーバー環境でない場合は、ローカルアクセス用エンタープライズオプションを設定する必要があります。



機器コントロールモード

機器に対してデータ収集や制御を行う場合は、[**スタンドアローン**]を選択します。

ログインと承認を有効にする

ログインおよびプロジェクト管理に対するセキュリティ機能を有効にするには、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、危機または管理機能にアクセスするときに、ログインの必要がありません。ユーザーが一人だけの研究室や機器またはプロジェクトへのアクセスセキュリティが問題でない場合を除いて、通常はこのボックスを選択してください。

ユーザーリスト

ネットワークに対してドメインコントローラを使用していない場合は、[**データシステム**]を選択します。

パスワードを保存する

このボックスにチェックマークを付けると、ユーザーがシステムにログインしたとき、そのパスワードが保存され、以後ログインする際に、パスワードを入力する必要がありません。このオプションは、1 人のユーザーだけがクライアントワークステーションを使うために考えられたオプションです。パスワードが保存されるため、システムセキュリティが低下します。

シングルログインモードを有効にする

このオプションが選択されると、一度ログインすれば以後のログインはそのログインしたユーザーで自動的にログインされますので、各機器個別にログインする必要がなくなります。

データシステムユーザー

ドメインコントローラを使用せずにユーザーリストを呼び出すと、ワークステーションに登録されているユーザー名が表示されます。ユーザーを追加するには、[**ユーザー追加**]ボタンをクリックし、ダイアログを完成させます。ユーザーを削除するには、リストからユーザー名を選択し、[**ユーザー削除**]ボタンをクリックします。

パスワードの変更

選択したユーザーのパスワードを変更するには、このボタンをクリックしてください。

E-mail オプション

E-mail 認証を有効にします。

1. メインメニューから、[**ツール**]/[**オプション**]/[**E-mail**]をクリックします。E-mail オプションが有効になります。



有効

E-Mail 設定を有効にするときにマークを入れます。マークをチェックしないと制御できず、以前の認証が各機器でなされません。

SMTP

E-Mail に SMTP が使用されているときにマークを入れます。

‘送信者’に使われるメールアドレス

ユーザー名を正しく入力します。

メールサーバーアドレス

このフィールドはメールが送信される SMTP の E-Mail アドレスを特定するために使用されます。ネットワークで認識される正しい TCP/IP アドレスまたは URL 名を入力します。

SMTP ポート

このフィールドは SMTP に使用される TCP/IP ポートを特定するのに用いられます。

ログインの認証

このボックスをクリックすることにより、ログインの認証が有効になります。ログインの認証のためのユーザー名およびパスワードを入力してください。

MAPI

E-Mail に MAPI を使用する場合にこのボタンを選択します。

注: E-mail オプションに MAPI を使用するためには、メッセージを送信する PC に MAPI メールクライアント (例えば、Microsoft Outlook や Outlook Express) をインストールしてください。ACI は安全上の理由からメールクライアントに含まれていないので、MAPI 通信により AICs を使用してクライアント/サーバーのインストールはできません。

プロファイル

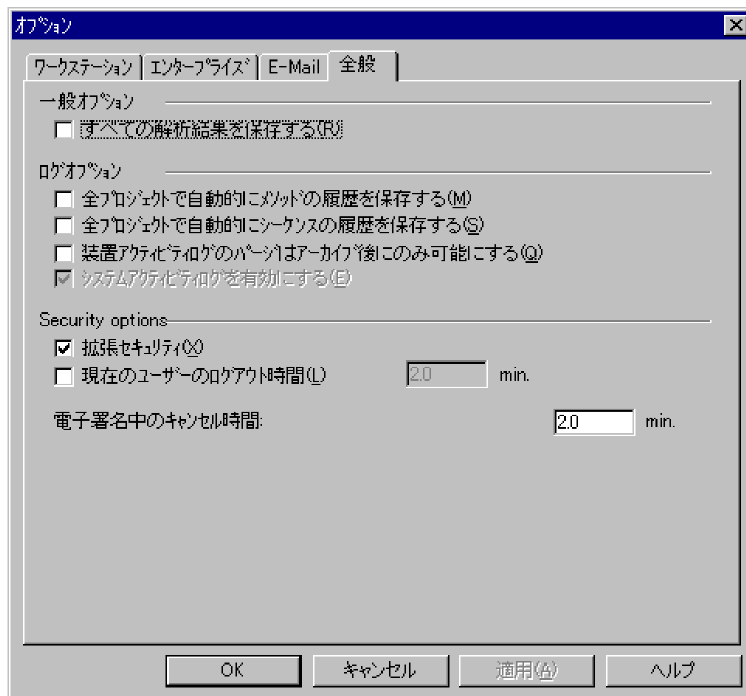
このフィールドは E-Mail 送信に使用される MAPI プロファイルを特定するために使用されます。

テスト

このボタンを押すと試験的に E-Mail サーバーに接続し SMTP ポートまたは MAPI プロファイルを確認します。結果は成功または失敗のダイアログで表示されます。

3 全般オプション

このタブを使って、全般エンタープライズオプションを有効にします。



すべての解析結果を保存する

このボックスを選択した場合、データファイルの分析を行うたびに、結果がそのデータファイルに保存されます。このボックスを選択しないと、元の結果と最新の結果だけがファイルに保存されます。このボックスを選択すると、結果にユーザー名と分析日時が追加さ

れます。このため、[結果]オプションを使って、[解析結果]ダイアログから特定の結果を開くことができます。

ログオプション

これらのオプション設定は、履歴またはアクティビティログに関連するものです。

全プロジェクトで自動的にメソッドの履歴を保存する

このオプションを選択した場合、全てのプロジェクトでメソッドの履歴が有効になります。メソッドの履歴を自動的に有効にするために、マークを入れずに、プロジェクトシステム管理ウイザードのオプションにて設定します。

全プロジェクトで自動的にシーケンスの履歴を保存する

このオプションを選択した場合、全てのプロジェクトでシーケンスの履歴が有効になります。シーケンスの履歴を自動的に有効にするために、マークを入れずに、プロジェクトシステム管理ウイザードのオプションにて設定します。

機器アクティビティログのパージはアーカイブ後にのみ可能にする

このボックスを選択した場合、機器アクティビティログを消去する前にアーカイブする必要があります。

システムアクティビティログを有効にする

このボックスを選択した場合、システムアクティビティログが有効になります。ただし、いったん設定すると解除することはできません。

セキュリティオプション

拡張セキュリティ

このオプションが選択されると、データファイルを閉じるときに、チェックサムが計算されます。そのあとファイルを開くとき、まず、そのチェックサムが確認されます。もし、チェックが失敗すると(計算されたチ

ェックサムが前に計算されたチェックサムと一致しない)、そのファイルを開くことはできず、機器アクティビティログにエラーが表示/記録されます。チェックサムの確認は、エンタープライズ全体に有効です。

現在のユーザーのログアウト時間

このボックスを選択した場合、時間 (min) を入力できます。ここで指定した時間（min）の間、マウスまたはキーボードで何も動作させなかった場合、システムは次のようになります。

- すべてのオープンダイアログが閉じます。
- 開いているすべてのウィザードが閉じます。
- 管理モードがログアウトします。

注: この機能は主にエンタープライズウインドウに適用され、個々の機器ウインドウには適用されません。

時間ごとに機器ライセンスを更新する

機器ライセンスの更新により、Agilent 機器コントロールや EZ サーバーの中断が防止できます。デフォルト時間は 30 分ですが、ネットワークが回復すると、一時的に 1 分に設定できます。

電子署名中のキャンセル時間

電子署名操作中に、ここで指定した時間(min)、何も入力されなかった場合、電子署名はキャンセルされます。

4 パスワードの変更

機器へのログインやプロジェクト管理を有効にする場合や [データシステム] からユーザーリストを入手する場合にユーザーパスワードを変更するには、ツールメニューからオプションを選択し、そしてエンタープライズタブを選択します。

パスワードの変更

ユーザー名: Hitachi

新しいパスワード: ********

新しいパスワードの確認入力: ********

OK　キャンセル　ヘルプ(H)

このコマンドを選択すると、指定したユーザーへの新しいパスワードを入力するダイアログが表示されます。新しいパスワードを入力し、再度確認入力を行い、[OK] ボタンをクリックします。中止するには [**キャンセル**] ボタンをクリックし、パスワードはそのままにしておきます。

注:　データシステムユーザーを使用するためにソフトウエアを設定する場合のみに本章は適用されます。ユーザーリストに基づくドメインを使用する場合には、各ユーザーにてウィンドウドメインを変更できます。

5　ログインロッグアウト

システム管理者は特別なユーザーをロックアウトしたり、ロッグイン失敗後に機器へのログインやプロジェクト管理を有効にしたり、ユーザーリストをドメインコントロールから入手したりする設定ができます。

1. メインメニューから [**ツール**]/[**オプション**]/[**エンタープライズ**] をクリックします。
2. [**機器へのログインやプロジェクト管理を有効にする**] を選択し、[**ユーザーリスト**] を [**ドメインコントロール**] に設定できます 。
3. [**ロックアウト設定**] をクリックすると、情報を入力できます。

注: ユーザーアカウントのみがロックアウトされるだけで、Windows 操作システムアクセスには影響を与えません。

ログイン ロックアウト
ロックアウト(L): 100 不正ログオン後
ロックアウトユーザー(O):
ロック解除(U)
電子メール通知を有効にする(E)
受信者(R):
メッセージ(T): ユーザー <USER> は、ログインに失敗したため、マシン <MACHIN
ユーザープログラムを有効にする(B)
ユーザープログラム(P):
追加パラメータ(A):
OK キャンセル ヘルプ(H)

不正ログオン後のロックアウト

回数を入力します。入力回数だけログオンに失敗すると(パスワードの誤りなど)、そのユーザーは本システムからロックアウトされます。このユーザーは、システム管理者がユーザーアカウントのロックを解除するまで、システムにアクセスすることはできません。ただし、ユーザーがすでに開始した処理(シーケンスデータ収集など)は、影響を受けません。ユーザーがロックアウトされると、システムアクティビティログに記録されます。

ロックアウトユーザー

ロックアウトされたユーザーがこのフィールドに表示されます。ユーザーのロックを解除するには、そのユーザーを選択し、[**ユーザーロック解除**]ボタンをクリックします。

電子メール通知を有効にする

これを選択した場合、ユーザーがロックアウトされると、電子メールメッセージが指定されたアドレスに送信されます。[電子メール通知を有効にする]を動作させるためには、MAPI または SMTP 互換電子メールをサーバーにインストールする必要があります。また、オプションダイアログの E-mail タブの[電子メール通知を有効にする] を設定する必要があります。

受信者

電子メール送信のための電子メールアドレスを入力します。セミコロンで区切って複数の受信者の電子メールアドレスを入力することができます。

メッセージ

電子メール送信のデフォルトメッセージは、[ユーザー <USER> は、ログインに失敗したため、マシン <MACHINE>のデータシステムからロックアウトされました。]です。これは、作成された電子メールの件名ラインにも使用されます。件名ラインの修正はできません。

ユーザープログラムを有効にする

ログインロックアウト発生時にユーザープログラムを起動したい場合、これを選択します。[ツール/オプション/ログインロックアウト]ウィンドウで[ユーザープログラムを有効にする]にチェックマークを付けた場合、プログラムへの UNC パスを指定しなければなりません。アプリケーションはエンタープライズマシンで実行されます。

ユーザープログラム

起動するユーザープログラムの UNC パス／ファイル名を入力します。

追加パラメータ

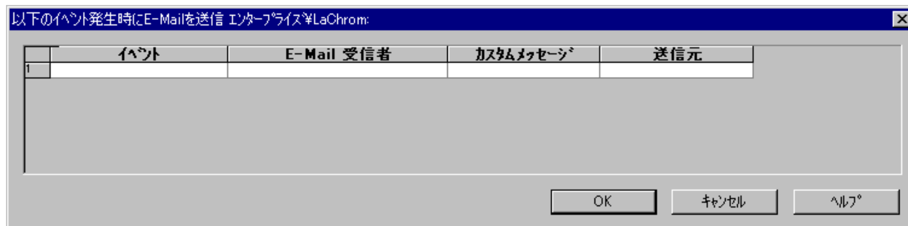
ここでプログラムに必要な追加パラメータを入力します。

6 E-mail 通知の設定

機器やローケーションのイベント用またはエンタープライズ用 E-mail 通知を設定できます。

1. エンタープライズツリー表示の設定ノード (機器、ロケーション、エンタープライズ) をハイライトにする。

2. [ファイル]/[構成]/[E-mail]で指定されたイベントのカスタムメッセージを設定します。



イベント

プルダウンリストからイベントを選択します。ラン実行中にイベントが発生するとカスタム E-mail メッセージが指定された受信者に送信されます。

E-mail 受信者

このフィールドはメッセージの宛先を特定するために使用されます。SMTP または正しいユーザーの MAPI 互換 E-mail アドレスを入力します。複数のアドレスを入力するにはセミコロンで区切って入力します。

カスタムメッセージ

イベントのカスタムメッセージを入力するにはここをクリックします。

発信元

このフィールドは通知の発信元を表示します。エンタープライズ構成に従い、このフィールドはエンタープライズ、ロケーション/グループ名または空白となります (現状のノードの場合)。

カスタムメッセージ

E-mail で通知されるメッセージを入力します。

カスタムメッセージ

OK　キャンセル　ヘルプ

7 ユーザーのパスワードを変更する

システム管理者は、メインウィンドウの[**ツール**]/[**パスワードの変更**]コマンドを使用して、ユーザーのパスワードを変更することができます。このコマンドを選択すると、指定したユーザーへの新しいパスワードを入力するダイアログが表示されます。

パスワードの変更

ユーザー名: Hitachi

古いパスワード: ********

新しいパスワード: ********

新しいパスワードの確認入力: ********

OK　キャンセル　ヘルプ(H)

パスワードを変更するユーザー名を入力します。それから、古いパスワードを入力後、指定の場所に新しいパスワードを入力します。再度、新しいパスワードの確認入力を行う必要があり

ます。[OK] ボタンをクリックすると、指定したユーザーに対して新しいパスワードが適用されます。

注:　データシステムユーザーを使用するためにソフトウエアを設定する場合のみに本章は適用されます。ユーザーリストに基づくドメインを使用する場合には、各ユーザーにてウィンドウドメインを変更できます。

---

8 システムアクティビティログを有効にする

1. メインメニューの[**ツール**]/[**オプション**]を選択し、そして [**一般**] タブを選択します。
2. [**システムアクティビティログを有効にする**] にチェックを入れます。システムアクティビティログが有効になると、無効にできません。

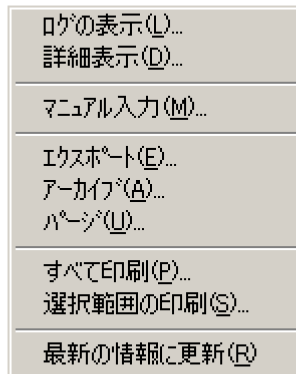
システムアクティビティログが有効になると、システムアクティビティログメニューも有効になります。メニューにアクセスするには、メインメニューの [ファァイル]/[システムアクティビティログ]をクリックします。

システムアクティビティログを表示する

最新のシステムアクティビティログを見るには、メインメニューの[**ファァイル**]/[**システムアクティビティログ**]/[**ログの表示**]を選択します。

最新のシステムアクティビティログが表示されます。右クリックすると、アクティビティログのための機能にアクセスできるメニューが表示されます。

注:　このメニューは、システム管理または機器管理権限が設定されていないユーザーの場合、有効になりません。また、このメニューは、システムアクティビティログを有効にしないと、無効となります。



ログ表示

これを選択するとシステムアクティビティログが表示されます。

詳細表示

これを選択した時、現在、選択された入力の詳細が表示されます。[戻る]と[次へ]ボタンを使用することで、他の詳細表示に移動することができます。

マニュアル入力

ログにマニュアルで入力するために使用します。

エクスポート

ログまたは選択した範囲のログについて指定したファイルにエクスポートするために使用します。

アーカイブ

ログをアーカイブするために使用します。Windows スタートメニューの Chromatography グループから [Archived Log Viewer]を起動することで、アーカイブされたファイルを見ることができます。

パージ

ログファイルの内容をパージするときにこのコマンドを使用します。パージを行う前に確認のダイアログが表示されます。

印刷

全てのログを印刷するために使用します。

部分印刷

ログの一部分を印刷するために使用します。

更新

表示ログを更新するために使用します。

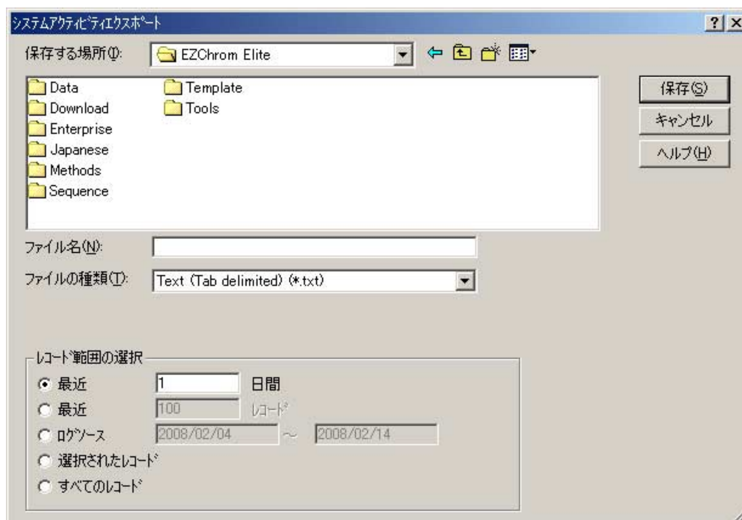
システムアクティビティログのアーカイブ

1. メインメニューの[**ファイル**]/[**システムアクティビティログ**]/[**アーカイブ**]コマンドを選択します。アーカイブファイルを保存する場所を選択するためのダイアログが表示されます。デフォルト名は、[.logarc]という拡張子付きで指定されます。これらのファイルは、Windows の Chromatography プログラムグループから起動できる[Archived Log Viewer]で見ることができます。

システムアクティビティログのエキスポート

1. メインメニューの[**システム**]/[**アクティビティログ**]/[**エキスポート**] を選択します。

指定した外部ファイルとしてシステムアクティビティログをエクスポートするときに、このコマンドを使用します。



ファイル名

システムアクティビティエクスポートファイルを保存するために使用するファイル名を入力します。

ファイルの種類

表示された選択肢から、保存したいファイルの種類を選択します。

レコード範囲の選択

希望のレコード範囲横にあるラジオボタンをクリックして選択します。

指定のファイルに選択した範囲のシステムアクティビティログを保存するには、[保存]ボタンをクリックします。

システムアクティビティログのマニュアル入力

1. メインメニューの[**ファイル**]/[**システムアクティビティログ**]/[**マニュアル入力**]を選択します。システムアクティビティログにマニュアル入力できます。内容を入力してから、[ＯＫ]ボタンをクリックします。

システムアクティビティログのパージ

1. メインメニューの[**ファイル**]/[**システムアクティビティログ**]/[**パージ**]を選択します。
2. システムアクティビティログのパージの確認が表示されます。[**OK**]ボタンをクリックすると、システムアクティビティログの内容がパージされます。このコマンドを使用するために、ユーザーはシステム管理権限を持っていなければなりません。

[ツール]/[オプション]の全般タブ内にある[**アクティビティログのパージはアーカイブ後にのみ可能にする**]オプションをチェックしている場合、システムアクティビティログのアーカイブダイアログが表示されます。ユーザーがログをアーカイブしている場合、ログをパージすることができます。アーカイブされていない場合、パージ操作は中止されます。

[**アクティビティログのパージはアーカイブ後にのみ可能にする**]オプションをチェックしていない場合、確認のメッセージが表示されます。このメッセージに対して、ユーザーが確認すれば、パージ操作が実行されます。

ログがパージされた後、パージが実行された記録として、システムアクティビティログに記入されます。

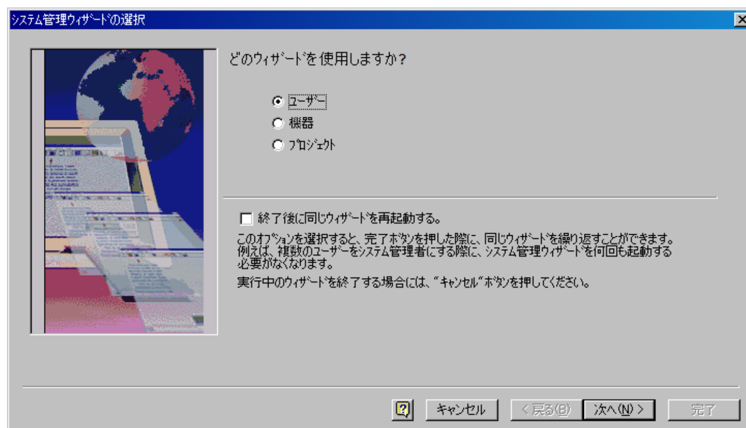
9 システム管理レポートを作成する

システム管理レポートはシステム管理者が作成します。レポートには、設定やユーザーリストのような管理情報も含めることができます。

1. メインメニューの[**ツール**]/[**システム管理レポート**]を選択します。
2. システム管理レポートダイアログでレポートに加えたい事項を選択して、[GO]ボタンをクリックするか、レポートを作成しなければ[EXIT]ボタンをクリックします。[GO]ボタンをクリックすると、レポートが作成されます。レポートを印刷するには、[印刷]ボタンをクリックするか、[ファイル]/[レポート印刷]をクリックし、プリンターを選択します。

10システム管理ウィザード

システム管理ウィザードを起動するには、メインメニューのツールバーから[ウィザード]ボタンをクリックするか、または[**ツール**]メニューから[**システム管理ウィザード**]を選択します。次の図に示す画面が表示されますので、実行したいウィザードを選択してください。



ユーザーウィザード

システム上で定義されたユーザーまたはグループに、システム管理の権限、または機器管理の権限、あるいはその両方を割り当てます。また、エンタープライズで定義されているユーザーまたはグループが、どの機器やプロジェクトを利用できるか定義することもできます。

機器ウィザード

エンタープライズで定義されている機器/ロケーションに、ユーザーまたはグループのアクセス権を割り当てます。

プロジェクトウィザード

新しいプロジェクトの設定、ユーザーやグループを既存のプロジェクトへの割り当て、既存のプロジェクトの定義を変更、プロジェクトをエンタープライズから削除を行います。

終了時に同じウィザードを再起動する

現在の設定作業終了したあと、同じウィザードを使って操作を続行する場合は、このボックスをクリックします。例えば、プロジェクトウィザードを再起動しないで複数の新しいプロジェクトを設定する場合などに使用します。

ユーザー権限

システム管理者は**システム管理ウィザード**を使用してユーザー権限を割り当てることができます。ユーザー権限は各ユーザー、各グループ(ドメインのインストールのみ)に割り当てられ、プロジェクトにより設定されます。

注: ユーザー権限は**デフォルト**プロジェクトに適用されません。

システムにおいて、ユーザーに適用するコマンドのリストを以下に示します。これらの機能の詳細については、オンラインヘルプまたはユーザーガイドで述べています。

権限	許可
メソッド	
メソッドを開く	メッソドファイルを開く。
メソッドを保存	メッソドファイルを開く。新しいメッソドを作成する(以下に示す複数のメッソド権限が必要)。
プロパティ	メソッドプロパティの表示や変更(ディスクリプション、オプション、キャリブレーション、追跡記録)
機器の設定	メッソド機器設定パラメータの表示や変更
インテグレーションイベント	メソッドインテグレーションイベントの表示や変更
ピーク/グループ	ピークテーブルやグループテーブルの表示や変更
詳細	詳細メッソドパラメータの表示や変更(エクスポート、カスタムパラメータ、カラム/性能、ファイル、詳細な

	レポート)
カスタムレポート	カスタムレポートの起動、編集、保存
システム適合	システム適合パラメータの表示や変更
レビューキャリブレーション	レビューキャリブレーションウィンドウにアクセルする
キャリブレーション	キャリブレーションサンプルを起動してメソッドキャリブレーションを更新する。メソッドのキャリブレーションを作成したり修正したりするためには、ユーザーはメソッド保存の権限は必要です。
データ	
データを開く	データファイルを開く。
データの保存	データファイルを保存する。
プロパティ(ディスクリプション)	データプロパティディスクリプションの表示や変更
マニュアルインテグレーション	マニュアルインテグレーションの追加や変更
電子署名	
データファイルの署名	データファイルの電子署名
複数ファイルの署名	複数のデータファイルの電子署名
複数ファイルの取り消し	複数ファイルの電子署名を取り消す。
シーケンス	
シーケンスを開く	シーケンスを開く。
シーケンスを保存する	シーケンスを保存する。
処理	シーケンス処理をする。
プロパティ	シーケンスプロパティの表示と編集
サマリー	シーケンスサマリーレポートの作成、編集や保存

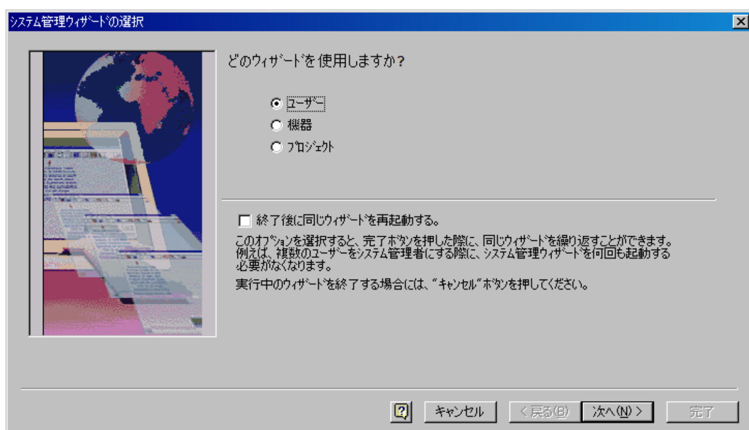
カスタムレポート	シーケンスカスタムレポートの作成、編集や保存
コントロール	
プレビューラン	ランをプレビューする。
シングルラン	シングランを実行する。
シーケンスラン	シーケンスを実行する。
機器のロック	機器のロックとアンロック
プリンターの設定	既存の機器用にプリンターを設定する。
マニュアルコントロール(アイドル)	機器のアイドリング中にマニュアルコントロール機能にアクセスする。
マニュアルコントロール	機器のアイドリングの有無に関わらずマニュアルコントロール機能にアクセスする。
前処理	
前処理を開く	オートサンプラの前処理ファイルを開く。
前処理を保存する	オートサンプラの前処理ファイルを保存する。
プロパティ	オートサンプラの前処理プロパティの表示や編集
詳細レポート	
詳細レポートを開く	詳細レポートテンプレートを開く。
詳細レポートを保存する	詳細レポートテンプレートを保存する。
機器アクティビティログ	
パージログ	機器アクティビティログをパージする。
セキュリティ	
共通フォルダにアクセスする	共通フォルダのファイルの確認、起動や保存
チューン	
チューンを開く	MS チューンファイルを開く。
チューンを保存す	MS チューンファイルを保存する。

る	
プロパティ	MS チューンプロパティにアクセスする。
オートチューン	MS オートチューンを実行する。
キャリブレーション	MS キャリブレーションを実行する。

ユーザーウィザード

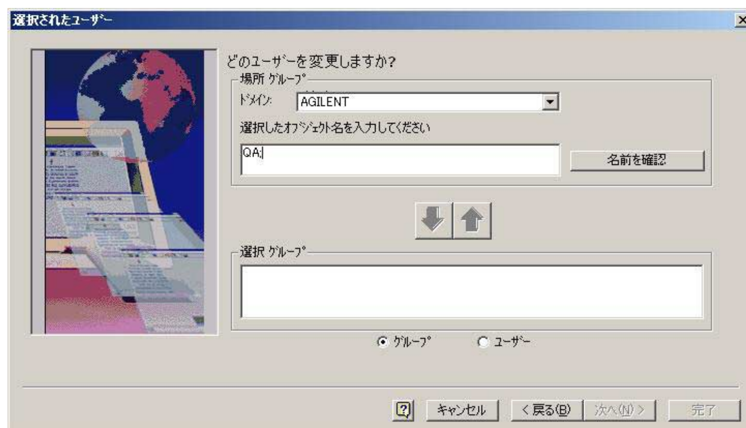
1. [**メインメニュー**]/[**ツール**]/[**システム管理ウィザード**]を選択します。
2. ユーザーやグループのシステムアクセス権を変更するために[**ユーザー**]/[**次へ**]をクリックします。複数のユーザーまたはグループを追加または編集する場合は、[**終了後に同じウィザードを再起動する**]ボックスをクリックします。このボックスにチェックマークを付けた場合、[**完了**]ボタンをクリックすると、ユーザーウィザードが再起動し、追加ユーザーまたはグループの追加または編集が可能となります。

注: ユーザーは Microsoft Windows のドメインコントローラ管理者により定義されます。詳細はネットワーク管理者に問い合わせるか Microsoft Windows の説明書を参照してください。



ユーザーの選択

1. ドメインをドロップダウンリストから選択します。
2. [**グループ**]か[**ユーザー**]を選択します。
3. リストに加えたユーザーまたはグループを種類分けし、[**名前**]をクリックします(複数のユーザーやグループを入力できます)。名前が確認されると緑色の矢印が表示されます。
4. 緑色の矢印をクリックすると[**選択されたユーザー**]リストに名前が加わります。
5. [**選択されたユーザー**]リストから複数の名前を削除するには、削除したい名前を選択します(1 つの項目をハイライトさせ、次に<Shift>キーを使ってクリックするとその間の選択項目すべてをハイライトできます。または、<Ctrl>キーを押しながら、クリックすると連続しない複数の項目をハイライトできます)。赤い矢印を使ってリストから名前を削除できます。



注: グループ内のすべてのユーザーに同じ管理権限、機器使用権限およびプロジェクト使用権限を割り当てる場合、個別に各ユーザーを割り当てるよりも、グループを選択してこの機能を実行するほうが早く処理できます。

ユーザーまたはグループの管理権限を設定するために、[**次へ**]ボタンをクリックします。

管理権限

システム管理ウィザードダイアログボックスはアクセス権を与えるために使用されます。



このユーザーにシステム管理機能へのアクセス権を与えるには、[**システム管理**]ボックスをクリックします。これにはユーザーウィザード、機器ウィザードおよびプロジェクトウィザードへのアクセスが含まれます。

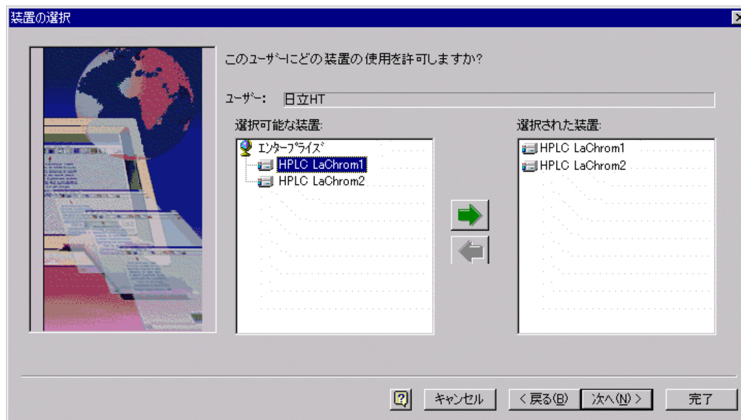
このユーザーが機器管理機能にアクセスできるようにするには、[**機器管理**]ボックスをクリックします。このボックスを選択すると、ユーザーは機器の追加、削除および設定する機能を利用できます。

どちらのボックスも選択されない場合、ユーザーはシステム管理機能にも機器管理機能にもアクセスできません。

[**次へ**]ボタンをクリックして機器の選択に移ります。

機器の選択

システム管理ウィザードダイアログボックスはアクセス権を持つユーザーに機器を割り当てるために使用されます。



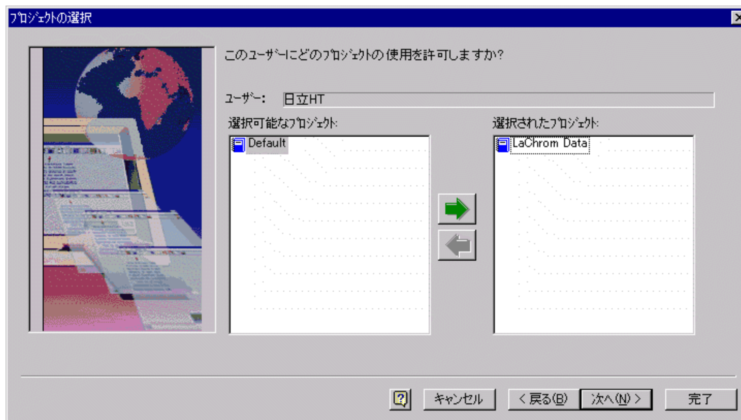
[**選択可能な機器**]ウィンドウに表示されたリストから、機器をダブルクリックするか、あるいはクリックしてハイライトしてから緑色の矢印をクリックしてこのユーザー(またはグループ)に割り当てる機器を選択します。このユーザー(またはグループ)がアクセスできる装置のリストが[**選択された機器**]ウィンドウに表示されます。[**選択可能な機器**]ウィンドウに機器が表示されない場合は、目的の機器が表示されるまでロケーションをダブルクリックしてエンタープライズを拡大します。

[**選択可能な機器**]ウィンドウからロケーション全体を選択し、ある研究室またはロケーション内の全ての機器をユーザーまたはグループに割り当てることもできます。[**選択された機器**]ウィンドウにあるロケーションが表示された場合、これはそのロケーションのすべての機器が選択されたということ意味します。

機器の選択が終了したら、[**次へ**]ボタンをクリックしてプロジェクトの選択に移ります。

プロジェクトの選択

このシステム管理ウィザードダイアログボックスで、現在のユーザー/グループがアクセスできるプロジェクトを選択できます。[**選択可能なプロジェクト**]ウィンドウから、プロジェクトを選択します。選択するには、マウスでダブルクリックするか、あるいはクリックしてハイライトしてから緑色の矢印をクリックします。[**選択されたプロジェクト**]ウィンドウには、現在のユーザー/グループがアクセスできるプロジェクトが表示されます。



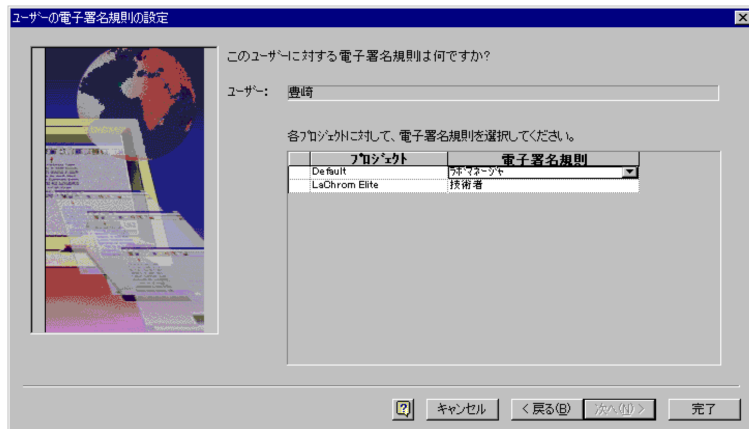
プロジェクトの選択を終了したら、[**次へ**]ボタンをクリックします。

ユーザーの電子署名規則の設定

システム管理ウィザードダイアログボックスで指定されたユーザーに電子署名規則を設定できます。

各ユーザーに対して、プロジェクト毎に電子署名権限のレベルを選択します。だれ一人として高い電子署名権限がないデータファイルについては、ユーザーはデータファイルの電子署名の取り消ししかできません。

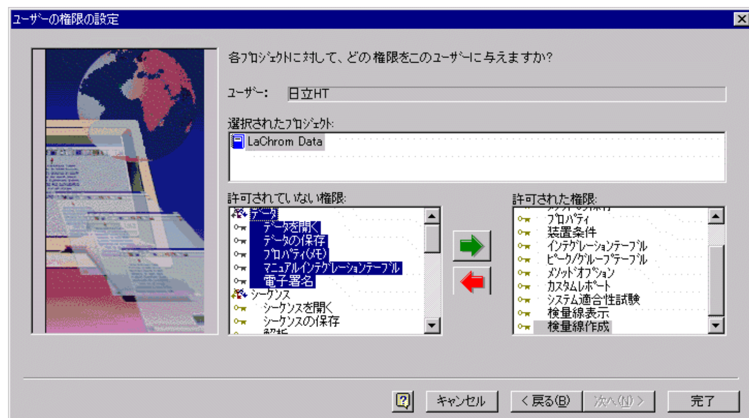
注: 規則は、ドメインセキュリティを使用したときにのみ適用され、データシステムセキュリティを使用したときは適用されません。



ユーザーのアクセス権の設定

システム管理ウィザードダイアログボックスはプロジェクト内のユーザーのアクセス権を割り当てるために使用します。

指定されたプロジェクトに対してユーザー権限を設定すると、ユーザー/グループは、定義されたプロジェクト用に割り当てられた機能コマンドに限ってアクセスすることができます。ユーザーに対して、十分な機能(メソッド開発およびデータ収集コントロール)を与えること、または一部のソフトウエアコマンドのみアクセス権を与えることができます。



権限を割り当てるには、マウスでハイライトさせてから、緑色の矢印をクリックします。例えば、データコマンドに関連した権限をすべて割り当てる場合は、メソッド、データやシーケン

スをダブルクリックします。これにより、その機能において使用可能なコマンドがすべて自動的に選択されます。

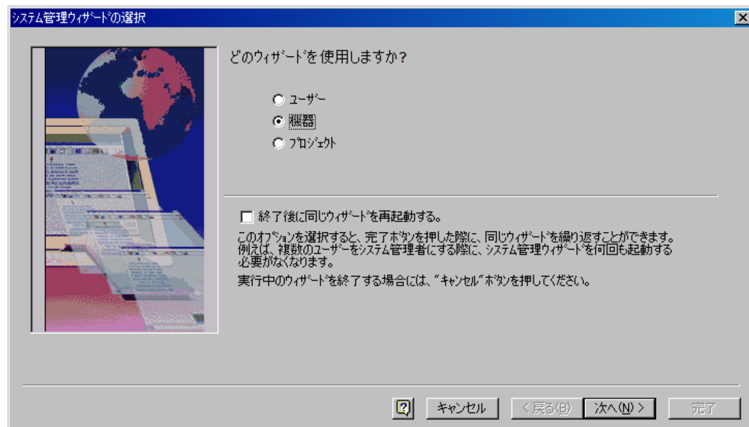
注: "検量線作成"というアクセス権を利用すると、ユーザーはキャリブレーション試料を分析して、メソッドキャリブレーションを更新することができます。メソッドでキャリブレーションパラメータを作成または変更するためには、ユーザーは"メソッドを保存"というアクセス権を割り当てる必要があります。

ユーザーのアクセス権の設定を終了したら、[**完了**]ボタンをクリックします。

機器ウィザード

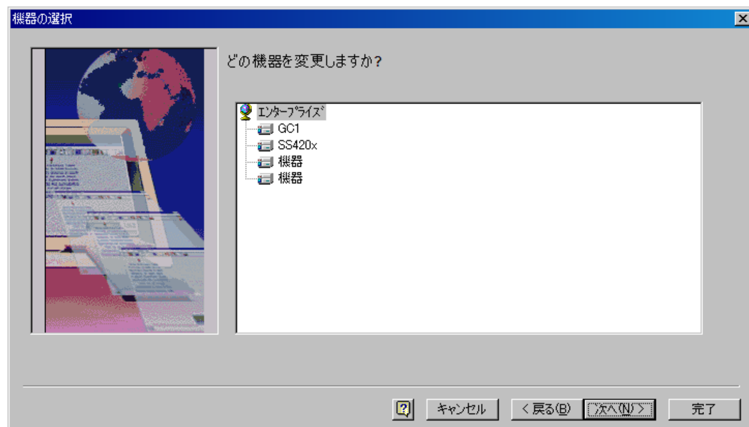
機器ウィザードを使うと、エンタープライズのロケーションにある 1 台またはすべて機器にユーザー/グループを割り当てることができます。

1. [**メインメニュー**]/[**ツール**]/[**システム管理ウィザード**]を選択します。
2. [**機器**]をクリックします。ユーザー/グループを割り当てる機器またはロケーションを選択し、次に[**次へ**]ボタンをクリックします。多くの機器やロケーションを追加または変更するには、[**終了時に再起動選択ウィザード**]をクリックする。このボタンにチェックマークを付けると、[**終了**]ボタンを選択すれば機器ウィザードが再起動する。



機器の選択

この画面では、個々の機器、または複数の機器を含むロケーションを選択することができます。あるロケーション内の個々の機器を表示するには、機器名が表示されるまでそのロケーションをダブルクリックします。

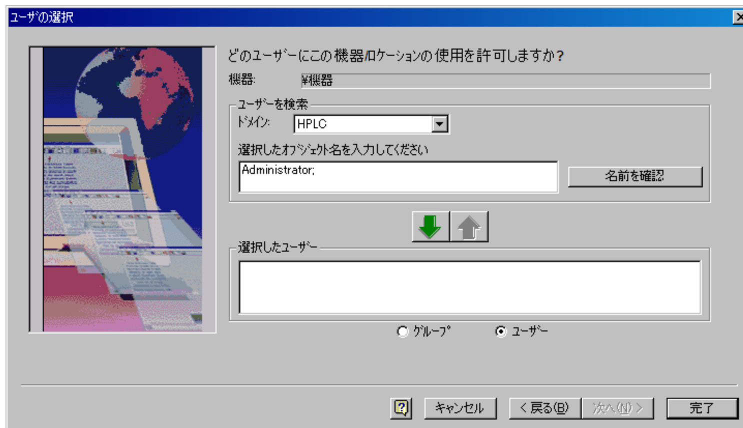


ユーザーやグループを割り当てたい機器やロケーションを選択し[次へ]をクリックする。

機器やロケーションに対するユーザーの選択

1. ドロップダウンリストからドメインを選択します。

2. [**グループ**]または[**ユーザー**]を選択します。
3. リストに加えたユーザーまたはグループを種類分けし、[**名前**]をクリックします(複数のユーザーやグループを入力できます)。名前が確認されると緑色の矢印が表示されます。
4. 緑色の矢印をクリックすると[**選択されたユーザー**]リストに名前が加わります。
5. [**選択されたユーザー**]リストから複数の名前を削除するには、削除したい名前を選択します(1 つの項目をハイライトさせ、次に<Shift>キーを使ってクリックするとその間の選択項目すべてをハイライトできます。または、<Ctrl>キーを押しながら、クリックすると連続しない複数の項目をハイライトできます)。赤い矢印を使ってリストから名前を削除できます。



この機器/ロケーションに対してユーザーリストの操作を終了したら、[**完了**]ボタンをクリックします。

プロジェクトウィザード

プロジェクトウィザードを使うと、システムプロジェクトの定義、編集または削除ができます。また、ユーザーおよびグループをプロジェクトに割り当てることができます。プロジェクトは、メソッド、データ、シーケンスおよびテンプレートを保存する一連のディレクトリとプロジェクトのメモから構成されま

す。プロジェクトを使うことにより、関連するデータがすべてのユーザーに一貫した指定のディレクトリに保存されますので、データ管理が容易になります。

1. [**メインメニュー**]/[**ツール**]/[**システム管理ウィザード**]を選択します。
2. [**プロジェクト**]をクリックしたあと[**次へ**]をクリックします。複数のユーザーやグループの追加や編集をするには[**終了時に再起動選択ウィザード**]をクリックします。このボタンにチェックマークを付けると、[**終了**]ボタンを選択すれば機器ウィザードが再起動し、追加プロジェクトの追加や編集ができます。



プロジェクト処理の選択

ウィザードを使用して、プロジェクトに関して行いたい操作を選択します。



新しいプロジェクトの作成

新しいプロジェクトを作成する場合に選択します。

プロジェクトに対するユーザーの割り当て

既存のプロジェクトにユーザーまたはグループを割り当てる場合に選択します。

プロジェクト設定の変更

既存のプロジェクトを編集または修正する場合に選択します。

プロジェクトの削除

システムからプロジェクトを削除する場合に選択します。ウィザードを使ってプロジェクトを削除すると、指定されたディレクトリにアクセスできなくなります。そのプロジェクトに対して定義された実際のデータディレクトリは削除されません。データディレクトリの削除が必要な場合は、適当なバックアップを行ってから Windows 管理者が行う必要があります。

新しいプロジェクトを作成する

新しいプロジェクトを定義するには、プロジェクトウィザードを選択し、[**新しいプロジェクトの作成**]を選択し、続いて[**次へ**]ボタンをクリックしてウィザードに従い、プロジェクト定義を行います。

プロジェクトの設定

この画面を使ってプロジェクトの設定を定義します。

名前

このフィールドにプロジェクト名を入力します。

保存場所

プロジェクトの保存場所を入力します。これは、[ファイルオープン]ボタンをクリックして、使用可能なディレクトリから選択することもできます。このフィールドに入力されたロケーションは、プロジェクトのメソッド、データ、シーケンスおよびテンプレートのデフォルトの保存ディレクトリとなります。

メモ

プロジェクトの説明をテキストで入力します。

ファイルの場所

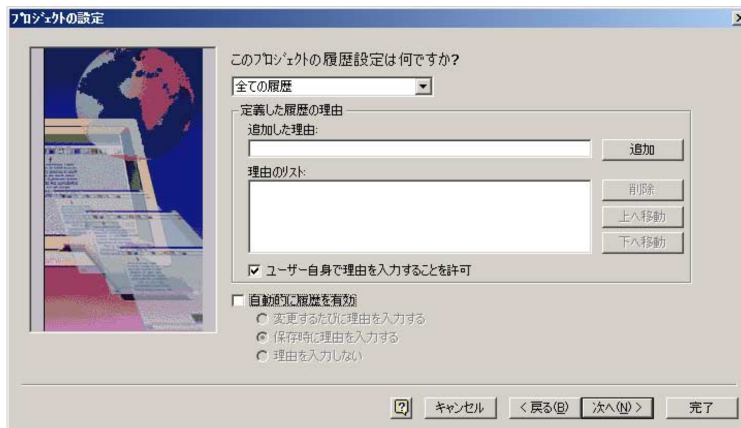
プロジェクトのファイルの場所は、[保存場所]フィールドの入力に基づいて自動的に作成されます。変更したい場合は、新しい場所を入力するか、または[ファイルオープン]ボタンをクリックして使用可能なディレクトリから選択します。

注:	クライアント/サーバーモードを使用する場合は、パスはすべて[汎用命名規則]にしたがって入力しなければなりません。例えば、[\\ntserver\projects]のように入力します。

プロジェクト設定を終了したら、[**次へ**]ボタンをクリックして次に移ります。

プロジェクトの設定・履歴

このダイアログではプロジェクトの履歴に関する設定を選択します。



このプロジェクトの履歴設定は何ですか？

設定を適用するには履歴を選択するか[**全履歴**]を選択します。

履歴理由

users.ユーザーが選択できる履歴理由を定義します。

変更理由の追加

理由を選択し、[**追加**]ボタンをクリックします。

変更理由のリスト

変更理由リストが表示されます。理由を削除するには、削除理由をハイライトして、[**削除**]をクリックします。

理由順番を変更するには、順番を変更する理由をハイライトして、[**上に移動**]か[**下に移動**]をクリックします。

自動的に履歴を保存する

このボックスをチェックすると、メソッドの履歴は自動的に保存されます。

変更するたびに理由を入力する

これを選択した場合、メソッドを変更するたびに変更理由を入力する必要があります。

保存時に理由を入力する

これを選択した場合、ファイルを保存するときに変更理由を入力する必要があります。

理由を入力しない

これを選択した場合、変更理由を入力する必要はありません。

電子署名規則の定義

このダイアログは、このプロジェクトにおける電子署名の適用について選定するために使用します。

規則名

電子署名の理由に沿った様々な電子署名規則のためのデフォルト名が表示されます。 変更したい規則名をハ

イライトさせることによって、規則名を変更することができます。

レベル数

このプロジェクトのための電子署名のレベル数を選択します。デフォルト設定は、3 です。一度、電子署名したデータファイルについては、ここで設定した電子署名規則よりも低いレベルのユーザーによって、取り消すことはできません。

電子署名の理由

現在の電子署名の理由が表示されます。電子署名の理由に対しての追加、変更および削除する場合は、[修正]ボタンをクリックします。

電子署名の理由を修正する

電子署名の理由を修正するには、[**電子署名規則の定義**]ダイアログの[**修正**]をクリックします。

電子署名の理由の追加、変更または削除する場合にこのダイアログを使用します。新しい理由を追加するには、[理由を追加する]フィールドに理由を入力してから、[追加]ボタンをクリックします。理由を削除するには、削除したい理由をハイライトさせてから、[削除]ボタンをクリックします。リスト内の理由をハイライトさせ、適切なボタンをクリックすることにより、理由を上下に移動させることもできます。

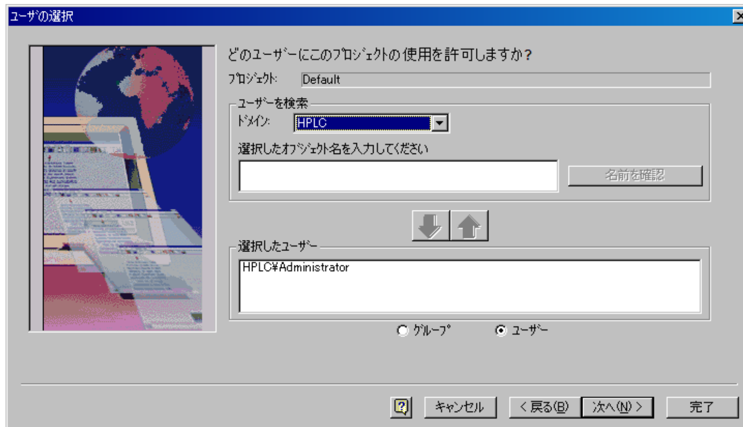


プロジェクトユーザーの選択

この画面を使って、新しいプロジェクトにアクセスできるユーザー/グループを選択します。

1. ドロップダウンリストからドメインを選択します。
2. [**グループ**]または[**ユーザー**]を選択します。
3. ユーザーまたはグループを[**名前の確認**]をクリックしてリストに追加します(複数のユーザーや/グループを入力できます)。名前が確認されると、緑色の矢印が表示されます。
4. 緑色の矢印をクリックして、複数の名前を[**選択されたユーザー**]リストに追加することができます。
5. [**選択されたユーザー**]リストから複数の名前を削除するには、まず名前を選択します(1 つの項目をハイライトさせ、次に<Shift>キーを使ってクリックするとその間の選択項目をすべてハイライトできます。または、<Ctrl>キーを押しながら、クリックすると連続しない

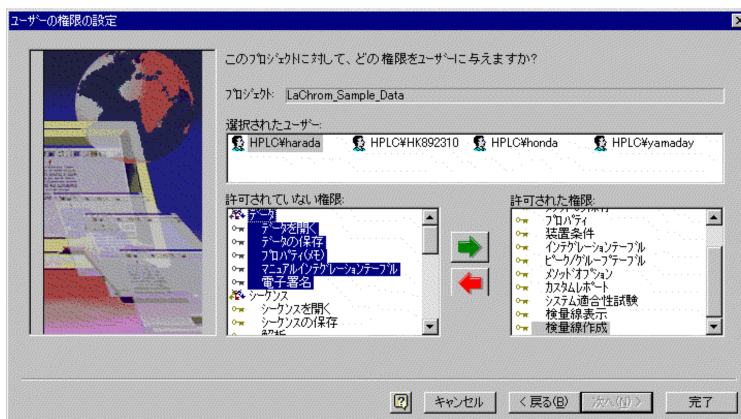
複数の項目をハイライトできます)。選択されたリスト
から項目を削除するには、赤色の矢印を使います。



[次へ]ボタンをクリックして次に移ります。

プロジェクトユーザーのアクセス権の設定

この画面を使って、このプロジェクトにアクセス権を持つユーザー/グループに、ソフトウェアのコマンドへのアクセス権を割り当てることができます。指定されたプロジェクトに対してユーザーの権限を設定すると、ユーザー/グループは、定義されたプロジェクト用に割り当てられた機能コマンドに限ってアクセスすることができます。ユーザー/グループに対して、すべての機能(メソッド開発およびデータ収集)を与えること、または一部のデータシステムソフトウェアのコマンドのみアクセス権を与えることができます。



権限を割り当てるには、マウスでハイライトさせてから、緑色の矢印をクリックします。例えば、データコマンドに関連した権限をすべて割り当てる場合は、権限(メソッド、データ、シーケンス)をダブルクリックします。これにより、その機能において使用可能なコマンドがすべて自動的に選択されます。

ユーザーのアクセス権の設定を終了したら、[終了]ボタンをクリックします。

注: [検量線作成]というアクセス権を利用すると、ユーザーはキャリブレーション試料を分析して、メソッドキャリブレーションを更新することができます。メソッドでキャリブレーションパラメータを作成または変更するためには、ユーザーは[メソッドを保存]というアクセス権を割り当てる必要があります。

注: ユーザーのアクセス権にはデフォルトプロジェクトは適用されません。ユーザーのアクセス権が必要な場合には、デフォルトプロジェクトを使用しないか、削除してください。

プロジェクトに対するユーザー/グループの割当

1. [メインメニュー]/[ツール]/[システム管理ウィザード]を選択します。

2. [**プロジェクトに対するユーザーの割当**]をクリックし、次に[**次へ**]ボタンをクリックします。作業対象のプロジェクトを選択し、ユーザーのアクセス権を割り当て、電子署名規則を設定します。



プロジェクト設定の変更

1. [メインメニュー]/[**ツール**]/[**システム管理ウィザード**]を選択します。
2. [**プロジェクト設定の変更**]をクリックしてから、[**次へ**]をクリックします。
3. 変更が設定できます。

このオプションを使って、エンタープライズの既存プロジェクトの内容を変更するには、[プロジェクト設定の変更]を選択します。プロジェクトの説明、ユーザー/グループ割り当て、およびアクセス権の割り当てを変更できます。ただし、一度、作成されたプロジェクトの場所を変更することはできません。



このオプションを選択すると、**作成したプロジェクト**のすべてのパラメータ(プロジェクトの場所を除く)を変更できます。[**次へ**]ボタンをクリックします。

プロジェクトの削除

1. [メインメニュー]/[**ツール**]/[**システム管理ウィザード**]を選択します。
2. [**プロジェクトの削除**]をクリックした後、[**次に**]をクリックし、削除するプロジェクトを選択します。このオプションを使って、使用中のプロジェクトが削除できます。ディレクトリは残りますが、データシステム内のプロジェクトにはアクセスできません。



11 設定

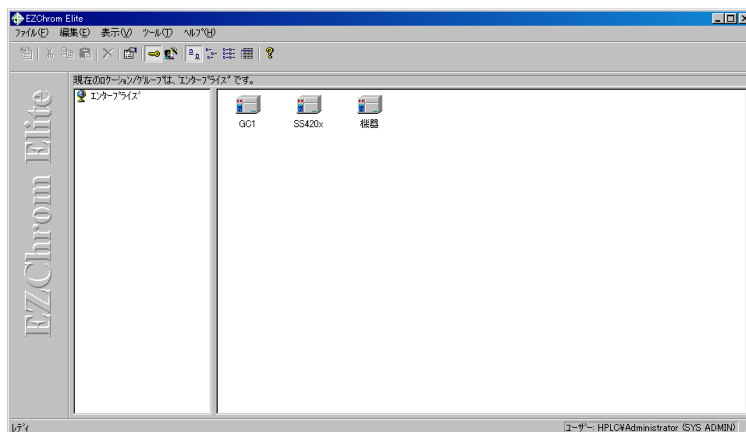
システム、機器、検出器の設定

設定手順は、システムおよびそのハードウェアを定義するプロセスです。設定手順には、次の 3 つの項目があります。

- **エンタープライズの設定**.
  クライアント/サーバーエンタープライズのロケーションおよび装置を定義します。
- **インターフェースの設定**
  A/D 基板、ポンプ制御基板、BCD 基板のようなシステムハードウェアを設定します。メインメニューの[ツール]コマンドから設定します。
- **機器の設定**
  システムで使用する各機器を設定します。メインメニューから行います。使用する機器、検出器の種類および数の設定、外部イベント(バルブ)の設定、一般的な処理オプションなどが含まれます。

メインメニュー

データシステム起動時、メインメニューは最初に表示される画面です。このウィンドウでは、システムに設定されたロケーションおよび機器を含めて、エンタープライズ全体を確認することができます。



デフォルト設定により、メインメニューの左側には定義されたシステムエンタープライズのロケーションが表示されます。エンタープライズは階層表示され、各ロケーションは、そこに設定されたロケーションまたは機器が入った[フォルダ]として表示されます。

ウィンドウの左側のロケーションをクリックすると、その内容が右側に表示されます。正符号(+)をクリックすると、さらに別のロケーションが表示されます。ウィンドウの片側のサイズを変更する場合は、両側を分けるバーをドラッグします。ロケーションを開いて、その内容をすばやく表示させるには、ウィンドウの左側のロケーションをダブルクリックします。

エンタープライズログイン/ログアウト

エンタープライズログインまたはログアウトするには、エンタープライズログイン/ログアウトボタンをクリックするか、または[**ツール/エンタープライズログイン/ログアウト**]をクリックしてください。

機器へのアクセス

メソッド開発、シーケンス作成およびデータ収集のために機器にアクセスする場合は、アクセスしたい機器のアイコンをダブルクリックします

表示の変更

デフォルト設定により、システム上に設定された機器はアイコンとして表示されます。[**表示**]メニューのコマンドを使って、メインメニューの表示方法を変更することができます。ツールバーおよびステータスバーの表示/非表示を切り替えたり、アイコンのサイズを変更したり、アイコンを並べ替えたりすることができます。アイコンのサイズを変更するオプションや詳細を表示するオプションは、コマンドリボンのボタンとして使用することもできます。

メインメニューから、システムに設定された機器の状態を表示することができます。状態を表示するには、メニューバーから[**表示/詳細**]コマンドを選択するか、または[**詳細**]ボタンをクリックします。現在のロケーションの危機が、ステータス情報とともに表示されます。

> [詳細]モードでロケーションを表示すると、画面の右側に機器名、現在の危機のステータス(使用可能、アイドリング中、分析中)およびその機器の現在のユーザー名が表示されます。ステータス表示は、[**ツール/オプション/ワークステーション**]タブの[ステータスを更新する間隔]で設定した時間ごとに更新されます。
>
> メインメニューにエンタープライズ全体を表示させないようにすることもできます。エンタープライズまたは階層表示を削除するには、[**表示/階層ウィンドウ**]をクリックします。このチェックマークを外すと、エンタープライズは表示されません。

データシステムを閉じる

データシステムを終了する場合は、メインメニューウィンドウの右上隅にある X ボックスをクリックするか、または[**ファイル/終了**]コマンドを選択します。メインメニューを終了すると、現在開いている装置アプリケーションもすべて閉じます。

プリンタの設定

E それぞれの機器の結果を異なるプリンタに出力できます。下記の手順でスタンドアローンでのプリンターまたはクライアント/サーバーでのプリンターを特定します。

スタンドアロンシステムでのプリンタ設定

データシステムに接続されたそれぞれの機器はそれぞれ独自のプリンタを所有できます。Windows で通常使うプリンタ以外を指定するには機器ウインドウで[**ファイル/プリンタ**]の設定を選択します。表示されたダイアログからその機器で使用するプリンタを選択します。

クライアント/サーバー環境でのプリンタ設定

クライアント/サーバー環境において全てのプリンタを共有することができます。共有プリンタの名称は全てのクライアントあるいはサーバーコンピュータで同一である必要があります。プリンタドライバおよび構成が正しく行われていることは、ワードパッドなど Windows のアプリケーションで確認します。

Agilent 機器コントロールの設定

プリンタの設定で、その機器で使用する共有ネットワークプリンタを選択します。プリンタの選択は Windows によりユーザー単位で特定されるため、プリンタを選択するときは操作時に使用するユーザー名でログインしてください。

クライアントマシンの設定

プリンタの設定でその機器で使用するプリンタと同じ共有ネットワークプリンタを選択します。この設定は Agilent 機器コントロールの設定と同じである必要があります。

機器プリンタの設定

それぞれの機器はその機器で使用するプリンタを設定できます。プリンタを設定するには機器ウインドウで[**ファイル**]/[**プリンタの設定**]を選択します。表示されたダイアログからその装置で使用するプリンタを選択し、[**OK**]をクリックします。

クライアント/サーバー環境での印刷

ある機器に対してネットワークプリンタが設定されると、その機器に対するレポートおよび印刷ジョブは、すべて自動的にそのネットワークプリンタに送られます。クライアントワークステーションが[**プリンタの設定**]ダイアログを開き、指定されたプリンタを変更すると、その機器のそれ以降の印刷ジョブはすべて新しく設定したプリンタに送られます。

クライアントワークステーションで機器を開き、レポートを印刷するか、その他の印刷ジョブを行う場合、設定されたドライバがインストールされていないと、その印刷ジョブは Windows で設定されたデフォルトのプリンタに送られます。

注: クライアントワークステーションで機器を開き、プリンタドライバーがインストールされているプリンタが設定されていない場合は、[ファイル/プリンタの設定]ダイアログを開き、[OK]ボタンをクリックして終了してください。そのダイアログで選択したプリンタが、その機器に設定されたプリンタになります。

解析専用環境での印刷

機器を解析専用で開いている場合、[ファイル]/[プリンタ]の設定ではそのユーザーに設定されたプリンタが示されます。ここでの設定はオンライン機器に影響しません。この機能により機器の設定を変更せずにオフラインでローカルプリンタなどへレポート出力を行うことができます。ユーザーはそれぞれの機器にオフラインで使用するプリンタを設定することができます。

機器設定の印刷

1. [機器ウィンドウ]/[**ファイル**]/[**機器設定の印刷**]を選択します。これにより、プリンタに現在の機器の設定が印刷されます。

12エンタープライスの設定

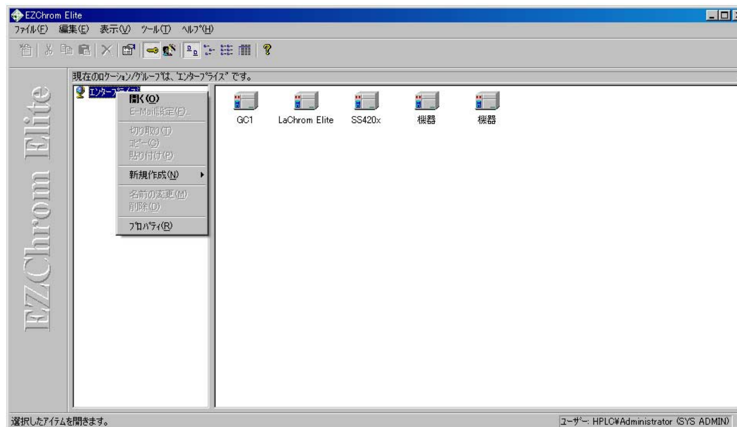
エンタープライズを定義する

最初の起動時には、メインメニューに"エンタープライズ "は定義されていません。システム管理者は機器を設定し使用する前にエンタープライズを定義する必要があります。

エンタープライズの名前上でマウスを右クリックして、エンタープライズに新たに命名します。[**命名**]をクリックすると新しい名前になります。

エンタープライズにロケーションを追加する

エンタープライズにロケーションを追加するために、マウスを右クリックします。さらに、[**新規作成**]/[**ロケーション/グループ**]を選択します。

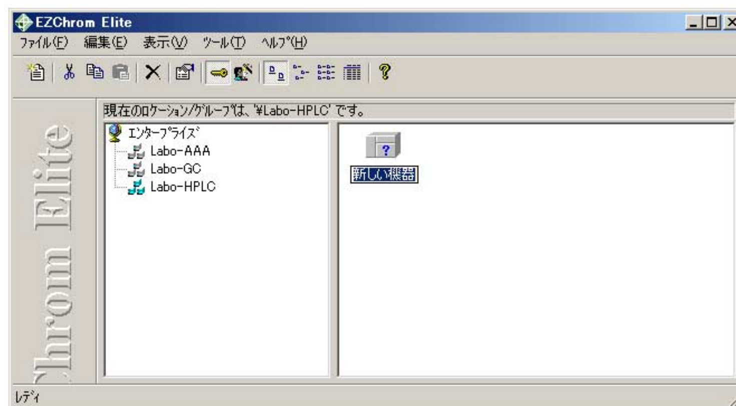


新規に入力された項目はエンタープライズの下に表示されます。新しいロケーションまたはグループに名前を付けることができます。エンタープライズの設定がご自分の所属する会社あるいはグループの構成と一致するまでロケーションまたはグループを追加してください。

エンタープライズに機器を追加する

機器を設定するには、まず、エンタープライズに機器を定義する必要があります。

1. 機器を追加する場合は、追加するロケーションを選択します。マウスを右クリックし、続いて[**新規作成**]/ [**機器**]をクリックします。新しい機器のアイコンが右側のウィンドウに表示されます。
2. 機器に名前を付け、ウィンドウ上のどこか他の箇所をクリックします。
3. システムエンタープライズがご自分の所属する会社あるいは研究室の構成に対応するまでロケーションおよび機器を追加します。
4. [**機器と検出器の設定**]の項に従って各機器の設定を行います。システムで使用する A/D 変換インターフェースを使用する場合は、[**インターフェースの設定**]の項に従って、設定を行う必要があります。完成したエンタープライズは、複数の機器を備えたラボのように単純なこともあれば、複数の建物、研究室および装置の複雑なリストのようになることもあります。



13インターフェースの設定

インターフェースはアナログ信号の受信、外部機器の制御に使用されます。使用前に、メインメニューから設定してください。

データ収集用インターフェースの設定

インターフェースの設定では、データを収集したり、LC ポンプなどの外部装置を制御したりするために使用されるハードウェアボードの設定作業を行います。データシステムを使ってデータを収集する前に、データ収集用インターフェースボードの設定を行ってください。PN ネルソンインターフェースは設定する必要はありません。検出器は設定する必要があります。

注: インターフェースボードが実際に装着されているスタンドアロンデータシステムまたは Agilent 機器コントロールに対して、インターフェースの設定が必要です。機器が接続されていないクライアントに対しては、この操作を行う必要がありません。

1. メインメニューから[**ツール/インターフェースの設定**]をクリックする。
2. 設定するインターフェース用アイコンをダブルクリックします(表示されるインタフェースはシステムに応じて変化します)。
3. 設定を完了させるために、[OK]をクリックします。

SS420x インターフェースの設定

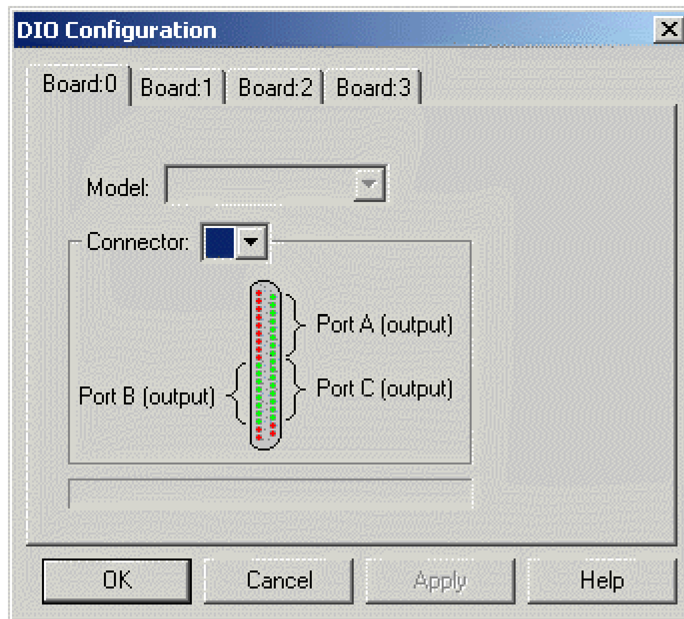
SS420x インターフェースの詳細設定は、SS420x の取扱説明書またはヘルプを参照してください。

CIO/DIO 基板の設定

外部機器を制御するために複数のコンピューター基板や CIO/DIO 基板を使うには、最初にそれらを設定する必要があります。基板の PCI を設定するために、[ツール/インターフェースの設定]を選択した後にインターフェースカードアイコンを選択します。これにより、“InstaCal”の設定ウィンドウが開き、自動で基板が検知されます。

1. メインメニューから[**ツール/インターフェースの設定**]をクリックする。

2. CIO/DIO アイコンをクリックした後に、[**プロパティー**]をクリックします。基板設定用ダイアログボックスが表示されます。



CIO/DIO 基板は 4 つまで設定できます。各基板に相当するタブをクリックし、モデルナンバーとコネクタを選択します。

モデル

ドロップダウンリストから正しいモデルを選択します。

コネクタ

ドロップダウンリストから適切なコネクタを選択します。選択したコネクタ図が表示されます。

設定を完了させるために、[OK]をクリックします。基板設定を変更したい場合にはコンピューターを再起動させます。

14機器の設定

機器、検出器、インジェクタ、オートサンプラは使用前に設定します。

データファイルからの機器構成の設定

機器を他の機器の設定と同じ設定にするには、データファイルを収集した設定にする必要があります。

1. 機器アイコン名の上で右クリックするか、または[**構成**]/[**データファイルからの設定**]をクリックします。
2. 警告ボックスの[**はい**]をクリックします。
3. 設定したいデータファイルを検索し設定した後に、[**OK**]をクリックします。設定がうまくいくとメッセージが表示されます。[**OK**]をクリックして完了させせます。

機器の設定

データシステムで使われる各機器はハードウエアモデュールを定義して設定する必要があります。デジタル/アナログ両機器に必要です。

注:　機器を設定するには機器管理アクセス権が必要です。

注:　機器を設定する前に、機器をロケーションに追加する必要があります。

1. [**メインメニュー**]で、設定したい機器のアイコンをマウスで右クリックしいます。
2. [**構成**]/[**機器**]をクリックします。
3. [**機器名**]フィールドで機器の識別名を入力します。この名前は、メインメニューの装置アイコンの横、その装置のアプリケーションウィンドウの上部、およびこの装置に関係したソフトウェアの他のフィールド(システム管理ウィザードなど)に表示されます。
4. 装置の種類のドロップダウンリストから、[装**置の種類**]を選択します。クロマトグラフ用機器はリストにないので、[**汎用**]を選択します。
5. クライアント/サーバーモードで作業していれば、[**サーバー名**]をン入力します。ここには、機器に接続している EZ サーバー名か、機器に接続している AIC を入

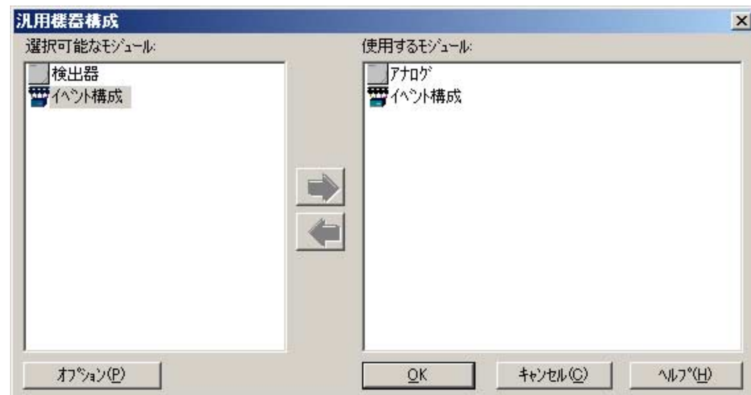
力します。スタンドアローンシステムで作業していれば、このフィールドは使用できません。

6. 検出器、外部イベントおよびハードウェアを定義して、機器の設定を完了させるために、[**構成**]ボタンをクリックします。



機器モジュールの設定

モジュールを設定するために、[**機器の設定**]ダイアログボックスの[**構成**]をクリックします。選択可能なジュールは[**機器の設定**]ダイアログボックスで選択した[**機器の種類**]によってきまります。



左の[**選択可能なモジュール**]ボックスにはアイコンが表示されます。モジュールを追加する場合は、左のボックスのアイコンをクリックし、次に緑色のボタンを

クリックしてそのアイコンを右の[**使用するモジュール**]ボックスに移動させるか、またはそのアイコンをダブルクリックします。次に、各モジュールを別々に設定しなければなりません。[**オプション**]ボタンは、この機器に対してオプション用ソフトウェアを使用する場合に使用します。

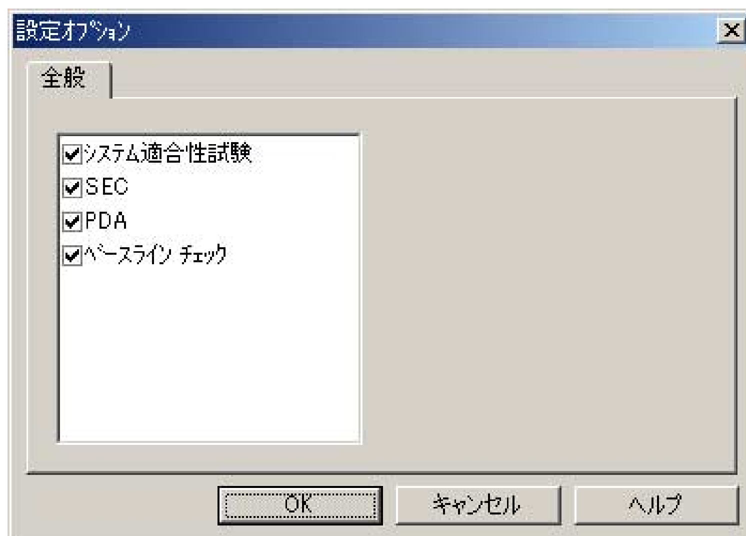
注: 機器モジュールの設定方法の詳細は、設定モジュールを開いている場合、ヘルプボタンをクリックすると閲覧できます。また、設定している機器のユーザーガイド(PDF)で閲覧できます(CD)。

機器のモジュールの設定を完了させるには、[**OK]**をクリックします。

一般的な設定オプションの設定

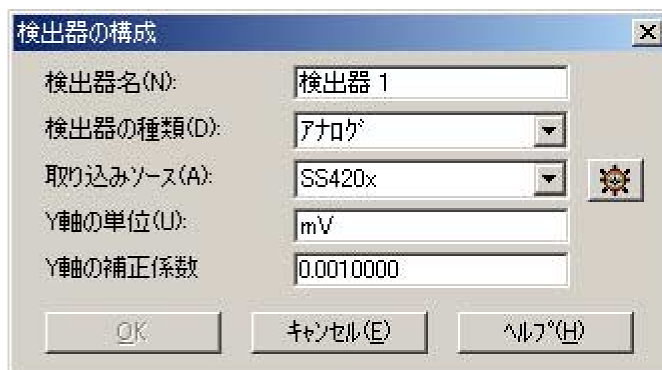
一般的な設定オプションにはオプション分析と機器を設定するパラメータ処理があります。どんな機器が設定されているか、どんなオプションが機器に利用できるのかによって、設定オプションリストが変更できます。

1. メインメニューから、機器を右クリックし、さらに[**構成**]をクリックします。
2. [**機器の構成**]の[**機器**]をクリックします。
3. [**オプション**]をクリックします。
4. 使用したいオプションをチェックします。
5. [**OK**]をクリックして完了となります。



アナログ検出器の設定

1. 検出器のアイコンをダブルクリックし、その全チャンネルについて設定ダイアログを完了させてください。
2. [**取り込みソース**]をクリックして、検出器のソースまたはボードを選択します。
3. [ソース設定]ボタンをクリックし、ソース設定パラメータを完了させます。
4. 次のようなその他のフィールドを完了させます。



検出器名

検出器の内容が分かる名前を入力します。例えば、FID や TCD などです。

検出器の種類

ドロップダウンリストから検出器の種類を選択します。

取り込みソース

ドロップダウンリストから、使用している A/D 変換ボードまたはデバイスの種類を選択します。次に、右横のボタンをクリックして設定します。

Y 軸の単位

クロマトグラムの Y 軸に表示する単位を入力します。検出器の測定単位に応じて、例えば、μV や AU などを入力します。アナログ信号を取り込み、μV で保存します。信号を別の単位で表示させる場合は、適切な係数を使用しなければなりません。通常、使用される Y 軸の単位と対応する Y 軸の係数については、下表を参照してください。

Y 軸の補正係数

通常、クロマトグラムは V(ボルト)単位で表示します。別の単位で表示させる場合は、下表を参考に適切な補正係数を入力してください。通常使用される Y 軸ラベルと対応する変換係数を次の表に示します。

Y 軸ラベル	Y 軸の補正係数
V	0.000001
mV	0.001
μV	1
その他	μV をかけて、希望の単位の数値になる係数を入力。

例えば、5μV に対応する Units という単位を使いたい場合は、1/5=0.2 を入力します。

この機器の検出器の設定を終了すると、[装置の構成]ダイアログに各検出器の名前と種類が表示されます。[**OK**]ボタンをクリックして設定を終了します。設定を有効にするには、機器アプリケーションを再起動する必要があります。

デジタル機器の設定

多くのデジタル機器はオプションコントロールソフトウェアを使って制御されます。個々の機器は固有の有効なモジュールと設定ダイアログを備えています。設定や操作について必要な機器のドキュメントやオンラインヘルプを参照してください。

バルブと外部イベントの設定

バルブ、トリガー、その他の外部イベントを設定するためには、まず、そのイベント出力装置がデータシステムに正しく接続されていることを確認する必要があります。外部イベントの設定には、その入力または出力ラインを指定する必要がありますので、設定を開始する前に、この情報を調べておく必要があります。

[**イベント設定**]アイコンをダブルクリックします。ウィンドウの "設定モジュール"にアイコンを移動させます。



[イベント設定]アイコンをダブルクリックします。設定する外部イベントを選択できるスプレッドシートが示されます。

イベントの設定

イベントには機器トリガー、バルブ、その他ユーザーに定義された外部イベントを含みます。

1. システム**設定**ウィンドウで、**使用できるモジュール**枠にある**イベント**アイコンを**設定モジュール**枠へ移動してダブルクリックします。
2. **設定モジュール**枠で、**イベント設定**アイコンをダブルクリックします。
3. スプレッドシートに機器の全てのイベントを定義し、[**OK**]をクリックして完了させます。

外部ｲﾍﾞﾝﾄの設定

#	名前	ｿｰｽ	設定
1	ﾄﾘｶﾞｰ	SS420x	構成済
2	ﾚﾃﾞｨ	SS420x	構成済
3			

OK　ｷｬﾝｾﾙ(C)　ﾍﾙﾌﾟ(H)

名前

トリガーまたはレディ信号ライン設定時は、[名前]フィールドのボタンをクリックし、リストから[トリガー]または[レディ]を選択します。バルブ、その他の外部イベント設定時は、[名前]フィールドをクリックし、イベント名を入力します。

ソース

[**ソース**]フィールドでは、ボタンをクリックし、イベントのソース(イベントを出すハードウェア)を選択します。

設定

[**セットアップ**]フィールドでは、ボタンをクリックし、このイベントの動作に必要な情報を設定するためのダイアログが表示されます。

注:　機器に対して、1 つまたはそれ以上の外部機器を設定しない限り、[機器設定]の[外部イベント]タブは利用できません。

複数の機器に同じイベントを割り当てることができます。イベントを割り当てる際には、機器間の競合が起こらないように注意してください。

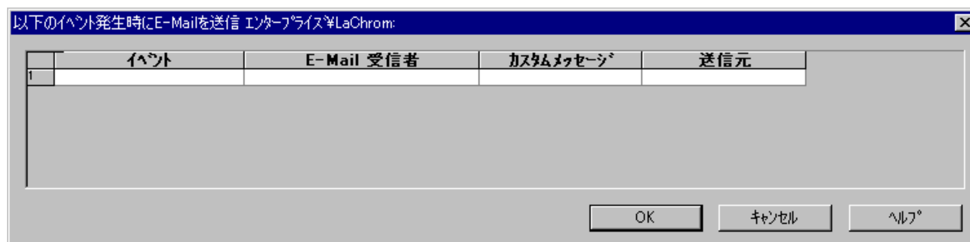
機器プリンタの設定

それぞれの機器はその機器で使用するプリンタを設定できます。希望するプリンタードライバーをネットワーク上から入手できます。プリンタを設定するには装置アプリケーションを開き、**ファイル/プリンタの設定**を選択します。Microsoft Windows のプリンタ設定ダイアログが開き、使用したいプリンタを選択します。最後に、[OK]をクリックします。全ての機器に同様な方法でプリンタを設定します。

E-Mail 通知の設定

機器、ロケーションのイベントまたはエンタープライスの E-mail オプションを設定します。

1. エンタープライズ表示の使用するノード(機器、ロケーション、エンタープライズ)をハイライトにします。
2. メインメニュから、[**ファイル**]/[**設定**]/[**E-mail**]を選択します。



イベント

プルダウンリストからイベントを選択します。ラン実行中にイベントが発生するとカスタム E-mail メッセージが指定された受信者に送信されます。

E-mail 受信者(S)

このフィールドはメッセージの宛先を特定するために使用されます。正しいユーザー名の SMTP か MAPI 準拠 E-mail アドレスを入力します。複数のアドレスを入力するにはセミコロンで区切って入力します。

カスタムメッセージ

イベントにオプションカスタムテキストメッセージを入力するにはここをクリックします。

送信元

このフィールドは通知の発信元を表示します。エンタープライズ構成に従い、このフィールドはエンタープライズ、ロケーション/グループ名または空白となります(既存のノードの場合)。

プレビューを使用してアナログ接続の確認

プレビュー機能を使用して、分析を行わずに信号をすばやく確認します。

1. メインメニューから、確認したい機器のアイコンをダブルクリックし、ログインして機器アプリケーションを起動します。
2. コマンドツールバーにある[**プレビュー**]ボタンをクリックします。または、メニューから[**コントロール/プレビューラン**]コマンドを選択します。この時、機器からのリアルタイムの検出器からの出力値が表示されます。単純な試料(溶媒など)を注入し、ピークが正しい方向に向いていることを確認します。ピークが現れない場合は、接続、アナログライン番号の割り当ておよび設定が正しいかどうか確認してください。ピークの向きが違う場合は、検出器信号ラインを逆にしてから、再度確認してください。
3. 確認作業が終了したら、[ストップ]ボタンをクリックします。なお、**プレビューラン**モードでは、データが解析されない点に注意してください。
4. アナログ信号およびリモート入力ラインが正しく接続されていることを確認しましたら、実際のデータ収集を開始することができます。データシステムを初めて使用する場合は、ユーザーガイドの「チュートリアル」を参照ください。この「チュートリアル」は、データシステムをより速く習得できるように、システムの基本操作法を段階的に説明しています。